

令和4年度 大学の世界展開力強化事業 審査結果表

大 学 名	横浜国立大学	主な交流先	インド・オーストラリア
事 業 名	レジリエントな社会への変革をリードする産官学連携ヨコハマ国際教育プログラム		
海 外 の 相 手 校	アンナ大学、インド工科大学カンプール校、パンジャブ大学、ペロール工科大学、グリフィス大学、ニューカッスル大学		

〔評価コメント〕

本事業計画は、神奈川・横浜エリアという地域特性を十分に活かした産官学連携の構想となっており、プログラムの充実度、実現性共に大いに期待できる。特にグローバル社会で、異なる視点を持つ新興国や資源国と連携できる国際感覚を体得した、持続可能な未来社会への変革をリードするSX（サステナビリティ・トランスフォーメーション）人材育成は、ローカル及びグローバル企業からも強く求められており、本事業の主旨に合致する。

質の保証の観点からも、学生の主体的な学びを推進する仕組みが構築されており、評価に値する。横浜国立大学ビジネスプランコンテスト(YBC)は、産官学連携のプロジェクトとなっており、HultPrize 学内予選大会へ繋げる事で、学生が国際的な視野を持てる環境を担保できている。更に各SXリーダー/スペシャリスト育成コースの副専攻プログラム化や、インドVITとの共同学位(DD)プログラム構築については、持続的に質の向上に努めており、評価できる。

また、プログラムを運営する上で、特にオンラインを積極活用した海外交流シンポジウム、産官学連携のセミナーは、学生が参加しやすいように工夫がなされている。国内海外共に多くの学生が交流を通して、興味を持ち、本事業に参加することを期待したい。

一方で、カリキュラムにおいて、インターンシップ/インダストリアルツアーをスタートとした産官学ネットワーク連携に懸念が残る。現状のインターンシッププログラムの内容に留まらず、企業と実質的なSX人材育成の為のカリキュラム作成の場となることを期待する。学生自らが、学びのテーマとなり得るグローバル社会のサステナビリティ課題を見つけ出し、連携企業と共に、より実践的な解へ向かって議論を深めていく姿を実現していただきたい。

今回の採択は、これまで貴学が培ってきた地域ネットワークの蓄積や、国際交流の実績、オンライン教育への取組が、本構想の教育的な広がりを実現性への評価に繋がったと考える。レジリエントな社会変革をリードするSX人材育成を実現する為に、改めて全学へ周知し、全学生を巻き込んだ貴学の国際戦略プログラムとして実行していただきたい。

最後に、今回選定された貴学においては、将来の我が国と相手国との関係を見据え、質保証を伴う国際教育連携の先導的モデルに中心となって取り組む拠点大学であるということの意義とその責任、期待の重さを認識し、事業内容の実現に向け真摯に取り組まれることを強く要請する。また、本事業は、補助期間終了後は自立的に事業を継続することが前提とされていることから、継続的かつ発展的に質保証を伴った事業を展開されたい。